

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス はびねす		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 25日		～ 2026年 3月 5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2026年 2月 25日		～ 2026年 3月 5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動する部屋数の多さ、廊下や玄関に至るまでの広々スペースとセントラルヒーティングで通所児童にとって、清潔安全である。	活動・作業を行う部屋数が多いことにより、タイムスケジュールにて利用児がローテーションしていく仕組みから個別活動・集団活動いずれも上手く活動できる。 個別活動においては他児の動きや視線を気にせず集中して活動できる。	年齢に合った活動内容を増やし、且つ時代に合っている活動・伝統的な基本的な素朴な活動を上手く組み合わせたい。
2	利用児一人ひとりに合わせた個人スケジュールを毎日作成し、ライフスキルトレーニングに力を入れ、丁寧な療育を行っている。	将来を見据え、他者との共存(グループホームや寄宿舍等)にも目を向けた上で個人スケジュールに集団活動を織り交ぜながら訓練をしている。 苦手に関しては、職員が仲立ちをしながら少しずつ支援している。	利用児童がより広く・深い興味や関心をもって取り組める活動を更に取り入れていきたい。
3	徒歩数分の場所に調理できるキッチンを作り、調理作業・食育に関連する活動に取り組んでいる。	食するまでのプロセス(下ごしらえ・調理・食事・後片付け等)を体験し、感謝や好奇心・喜びを味わうことが出来るよう取り組んでいる。	クッキングを通して、将来的な就労に繋がる選択肢が増えることを意識して活動していきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職(保育士を除く士業)による療育・支援	理学療法士や心理士等、絶対的に必要不可欠とまでは考えていないが、何らかの事由につき必要となった場合に人材確保や雇用事情が難しいと考える。	現在のスタッフで、研修の受講やスキルアップのための講義等、積極的に参加するようにしていく。
2	地域交流に参加出来ていない	一時期よりは弱まったものの、コロナ禍からの警戒心や季節的な感染症の流行があり、難しい状況である。	近隣に限らず、土曜日や長期休みの時間に余裕のある際、行事・イベントに参加していきたい。
3	外部研修が少なめであること	療育中の時間帯に開催される研修は、繁忙時間なため参加できないことが多い。	YouTube動画やZoom等も生かし、広い分野での見識を高め・情報を収集していきたい。